

なるとの環境情報をお知らせします！

なると環境新聞

かんきょう しんぶん
第2号

自然環境調査の結果をお知らせします！

鳴門市では、現在進めている「鳴門市環境基本計画」づくりの一環として、市内の植物や動物（鳥類、哺乳類、昆虫類、水生動物、両生類・爬虫類）についての調査を行いました。ここに調査結果の一部をお知らせします。現地調査でご協力頂いた皆様、有難うございました！

鳴門には自然がいっぱい！でも...!?

鳴門の自然には、こんな特徴・傾向がありました...

海（内湾、海峡、磯浜、砂浜等）や山、川（源流～河口）、二オ、ため池、農業用水路、田んぼやハス田、社寺林など、多様な自然環境がある。

周辺の地域で少なくなっている生きものが生息・生育する自然があるが、その種類や数は減少していると推測される。阿讃山脈や海辺、川、空を通じて、周辺の地域や多くの国々ともつながっている。

もともと鳴門にはいなかった生きものが増えている。

農業被害など、人の暮らしと生きもの暮らしの間に問題が多くなっている。



こんな生きものがいます！

鳴門市にはレンコン田、田んぼ、ため池、川、そして海などの色々な水辺や、山や社寺林などの緑もなど、とても多様な自然環境があります。その中から、水辺およびその周辺で見られる生きものをいくつかご紹介し

タヌキマメ

夏から秋にかけて、青紫色のきれいな花を咲かせるマメ科の植物です。徳島県ではめったに見られなくなっている植物です。



アオヤンマ

全身があざやかな水色で、ヨシなどが生える湿地に生息します。トンボの仲間は、種類によって利用する水辺が違っているので、いろいろな水辺があるとたくさんの種類のトンボが見られます。



ナガレホトケドジョウ

ふつうのドジョウより小さくてずんぐりした、とても可愛い魚です。山間部の溪流など、川の上流にすんでいます。



メダカ

農業用水路などにいました。皆さんよくご存じの魚ですが、姿を見かけることが少なくなりました。

じつは、ここでご紹介したのはすべて、国もしくは徳島県の「絶滅のおそれがある生きもの」に指定されている生きものたちです（メダカも！）。身近にふつうに見られた生きものたちが、最近ではどんどん少なくなっています。あなたの家の近くではどうですか？

世界ともつながっているよ！

鳥の調査では、シベリアや東南アジアなど、外国から海をこえてやってくる『渡り鳥』がたくさん確認されています。

春に南から渡ってくる鳥...ツバメ、オオヨシキリなど
秋に北から渡ってくる鳥...マガモ、ヨシガモなど

鳴門はタカ類（サシバ、ノスリ、ハチクマ等）の渡りのルートになっていて、鳴門公園は観察ポイントとして知られています。

特に秋（9月中旬～10月）の渡りでは、サシバやノスリの大群を見ることができます。

小さな体で何千キロも旅する鳥たちを見ていると、鳴門が遠く離れた国ともつながっていることが分かります。

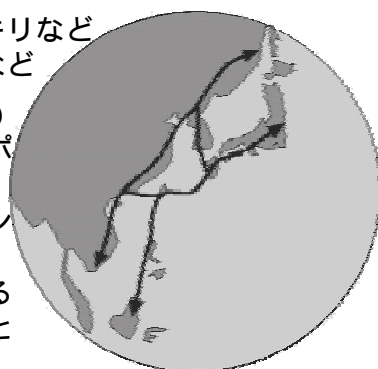
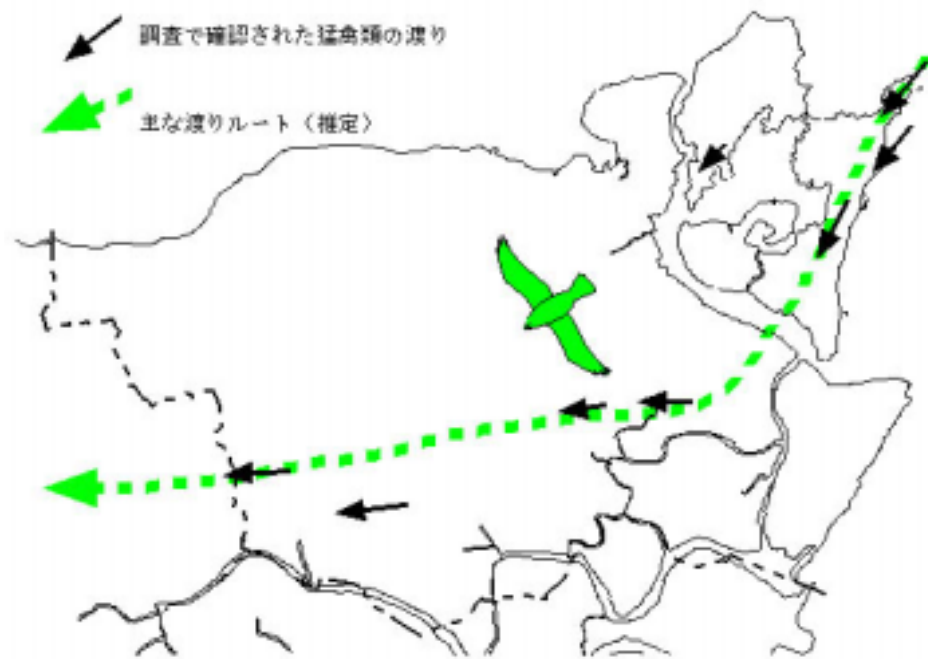


図 サシバの渡りルート(推定)



こんな生きものもいた！

もともと鳴門にはすんでいなかった動植物「外来種」もいました。

外来種の中には、もともとすんでいた生きもの（在来種）を食べてしまったり、すみかを奪ったりと、悪い影響を与えるものもいます。

外来種の多くは、飼いきれなくなったペットを捨てたり、レクリエーションのために放されたり、他のものにまざって知らないうち



ナルトサワギク

1976年に日本でははじめて鳴門市瀬戸町で見つかったアフリカ南部原産の帰化植物です。埋め立て地の緑化の種子に混じって広がっています。

スクミンゴガイ (ジャンボタニシ)

田んぼや水路で見られました。ピンク色の目立つたまごをうみます。南米原産で、食用として日本に持ち込まれました。イネを食害します。



アライグマ

原産地は、北アメリカです。鳴門市でも見かけられるようになってきていますが、ペットが逃げ出したものでしょうか。元々すんでいる生きものたちへ影響を与えるばかりでなく、農作物を食べるなどの被害を出しています。



オオクチバス(ブラックバス) ブルーギル

ため池や川の下流部などで見られました。小魚やエビを食べてしまうため、全国的に問題になっています。北アメリカ原産で、釣りの対象として人気があります。

